

地域スポーツ指導者に関する研究

—厳格なスポーツ・クラブ指導者への支持度を規定する要因の分析—

福元和行・遠藤勝恵*

(平成6年6月21日受理)

研究目的

今日のスポーツの状況は、大衆化、多様化、大型化、日常化などの言葉で表現され、人間欲求としてのスポーツ欲求が顕在化したものと考えることが出来るが、スポーツ欲求の充足に際してのスポーツ指導者の重要性については言うまでもない。

過日、地域社会のスポーツ・クラブの指導者に求められる条件を明らかにしようとして因子分析を行った結果、第1因子として「資質」が抽出されたが、抽出された資質の内容は、明朗な人、信頼感のある人、親切な人、ユーモアのある人、判断力のある人、の5変数であった⁽¹⁾。ところで、厳格な人という変数についても少なからぬ支持が寄せられたが、因子の中に組み込まれなかった。それは厳格な人、というイメージは先の5変数がそれぞれ持つイメージと大きく異なるため、一つだけの変数があらず変動は共通因子の中にくみ込まれない⁽²⁾ためであったとも考えられるが、厳格な指導者を支持する人の分析は残されたままである。

本研究は地域のスポーツ・クラブのメンバーによる厳格な指導者への支持度を規定している要因を探ることを研究目的としている。

研究方法

1 データの収集

公営体育館を利用して活動しているスポーツ・クラブのメンバーに対して、留置法による調査を行った。135名の有効回答を得たが、標本の構成は表-1の通りである。

調査は1992年4月に実施した。調査内容は個人及びクラブの属性に関して10項目、指導者の条件の規定要因に関して33項目を設定したが、後者については「全く思わない」から「強く思う」までのワーディングによるリッカート尺度の5段階評定を用いた。

* 山口大学教育学部

表-1 標本の構成

		N	%
1. 性別	男子	86	63.7
	女子	49	36.3
2. 年齢	30才未満	57	42.2
	30才代	25	18.5
	40才代	19	14.1
	50才以上	34	25.2
3. クラブへの参加目的	技術の向上	16	11.9
	スポーツを楽しむ	68	50.4
	仲間と楽しく運動	20	14.8
	健康づくり・その他	31	23.0
4. クラブの在籍年数	半年未満	8	5.9
	半年以上1年未満	6	4.4
	1年以上3年未満	25	18.5
	3年以上	96	71.1
5. クラブ種目についての学生時代の運動経験	同種目のクラブに入って運動していた	68	50.4
	異種目のクラブに入って運動していた	4	3.0
	授業で教わった	7	5.2
	放課後などに個人的に行った	13	9.6
	行ったことがなかった	43	31.9
6. クラブでの役割	リーダー・世話人	21	15.6
	会計・連絡係	8	5.9
	役職なし	106	78.5
7. クラブの活動目的	技術の向上	26	19.3
	スポーツを楽しむ	88	65.2
	健康づくり	13	9.6
	その他	8	5.9
8. クラブのメンバー数	10人未満	20	14.8
	10人以上20人未満	50	37.0
	20人以上30人未満	16	11.9
	30人以上	49	36.3
9. 指導者の有無	いる(クラブのメンバー)	65	48.1
	いる(クラブのメンバー以外)	7	5.2
	いない	63	46.7
10. 練習計画の決定方法	指導者が決定	12	8.9
	リーダー・世話人が決定	43	31.9
	指導者とリーダー・世話人が相談して決定	16	11.9
	クラブ員全員で決定	48	35.6
	その他	16	11.9

2 データの分析

スポーツ・クラブ員による厳格な指導者への支持度と各変数との関係を探るため、 χ^2 値及びピアソンの相関係数を求め、さらに林の数量化理論Ⅱ類を適用するという3種類の解析方法を採用したが、数量化Ⅱ類の適用に関して、回答数がきわめて少ないカテゴリーはパラメータが不安定になりやすい⁽³⁾、という問題を回避するため、個人及びクラブの属性以外のアイテムと外的基準については「全く思わない」から「強く思う」までの5段階評定を「思わない」「わからない・思う」の2段階評定に統合し直した。解析の条件は $T=2$ 、アイテム数42、カテゴリー総数96である。

結果及び考察

1 外的基準と説明変数のクロス集計結果及び相関

1) 個人及びクラブの属性

個人及びクラブの属性と外的基準（スポーツ・クラブ員による厳格な指導者への支持度）との関係を見ようとしたのが表-2である。設定した10変数のうち、2変数について有意差が認められた。

表-2 外的基準と個人及びクラブの属性関連変数のクロス集計結果及び相関

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
個人及び	在籍年数			-.211	*
クラブの所属	指導者の有無			.194	*

* < .05

在籍年数が半年未満の人では、指導者として厳格な人を求める人が約38%であるのにたいして3年以上在籍している人では、厳格な人を希望している人が約70%となっており、在籍年数が長くなると、指導者として厳格な人を求める人が多くなる傾向が表れている。

指導者の有無別では、クラブの指導者として厳格な人を求める人は、所属しているクラブに指導者がいる場合に多く見られるが、特にクラブ指導者がクラブの構成メンバーである場合に多く見られる。一方、クラブに指導者がいないクラブに在籍している人では、指導者として厳格な人を希望する人は少なく、指導者の有無により厳格な指導者に対する支持度に差異が見られる。

2) 資 質

資質と関連した変数と外的基準との関係を見ようとしたのが表-3である。4変数に有意差が認められた。

表-3 外的基準と資質関連変数のクロス

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
資 質	親切な人			.157	*
	明朗な人	5.606	*	.206	**
	知性的な人	18.533	***	.371	***
	判断力のある人	6.023	*	.214	**

***<.001 **<.01 *<.05

適当な指導者として親切な人、明朗な人、知性的な人、判断力のある人を挙げた人では、厳格な人を指導者として支持する傾向が見られるが、特に知性的な人を挙げた人では χ^2 値、相関係数の両方で高い値を示した。一方、これらの4つの資質について否定的な人では、指導者として厳格な人を支持する人が少ないという傾向が伺われた。

3) 親 和

クラブ・メンバーの指導者に対する親しみ（親和）に関連した変数と外的基準との関係を見ようとしたのが表-4であり、3変数に有意差が認められた。

表-4 外的基準と親和関連変数のクロス集計結果及び相関

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
親 和	若い人がよい	3.970	*	.172	*
	クラブの構成メンバーである人	7.549	**	.237	**
	クラブと一体化しようと努力する人	4.379	*	.181	*

**<.01 *<.05

指導者として適当な人は若い人、クラブの構成メンバーである人、クラブと一体化しようと努力する人、であると考えている人には、厳格な人を指導者として支持する人が多く見られるが、これらの項目にたいして否定的な人では、指導者として厳格な人を支持する人は少ない、という結果になっている。

4) 技術・知識の指導

技術・知識の指導に関連した変数と外的基準の関係を見ようとしたのが表-5である。6変数に有意差が認められた。

スポーツ・クラブの指導者として適当な人は、スポーツの楽しさを指導してくれる人、体力づく

表-5 外的基準と技術・知識指導関係変数のクロス集計結果及び相関

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
技術・知識 の指導	スポーツの楽しさを教えてくれる人	7.292	**	.232	**
	体力づくりを指導してくれる人	10.140	**	.275	***
	ルール・審判法などの知識を指導してくれる人	15.590	***	.340	***
	作戦・戦法などの知識を教えてくれる人	6.454	*	.219	**
	体力づくりの知識を教えてくれる人	20.364	***	.391	***
	安全の為の知識を教えてくれる人	9.613	**	.267	***

***<.001 **<.01 *<.05

りを指導してくれる人, ルール・審判法などの知識を指導してくれる人, 作戦・戦法などの知識を指導してくれる人, 体力づくりの知識を指導してくれる人, 安全のための知識を指導してくれる人, であると考えている人では, 指導者として厳格な人を支持している人が多く見られるが, これらの項目について否定的な人では, 指導者として厳格な人を支持する人は少ない。

5) 運営指導

スポーツ・クラブの運営面の指導に関連した変数と外的基準の関係を見ようとしたのが表-6である。6変数に有意差が認められた。

表-6 外的基準と運営指導関連変数のクロス集計結果及び相関

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
運営指導	練習計画の立て方を教えてくれる人	22.354	***	.410	***
	運営方法について教えてくれる人	22.958	***	.414	***
	クラブ内の人間関係に配慮してくれる人	18.732	***	.325	***
	クラブ内で困っていることの解決に努力してくれる人	13.348	***	.278	***
	カウンセリングを行ってくれる人	19.901	***	.387	***
	練習の進め方・方法を教えてくれる人	7.296	**	.233	**

***<.001 **<.01

指導者として適当な人は, 練習計画の立て方を指導してくれる人, 運営方法について指導してくれる人, クラブ内の人間関係に配慮してくれる人, クラブ内で困っていることの解決に努力してくれる人, カウンセリングを行ってくれる人, 練習の進め方・方法を指導してくれる人, であると考えている人では, 厳格な人を指導者として希望する人が多く見られたが, 特に練習計画の立て方, 運営方法の指導を行ってくれる人, 及びカウンセリングを行ってくれる人については, χ^2 値, 相

関係数共に高い値を示した。

6) 指導方法

指導方法に関連した変数と外的基準との関係を見ようとしたのが表-7であるが、2変数に有意差が認められた。

スポーツ・クラブの適当な指導者は、指示したりしてクラブをリードしてくれる人、であると考えている人では、指導者として厳格な人がふさわしい、と考えている人が多く見られる。クラブ員の求めに応じて指導してくれる人を支持している人にも同様の傾向がみられるが、後者の方で χ^2 値に有意差が見られないこと、及び相関係数の有意差で前者が後者を上回ることから、指示型の指導方法をとる指導者を支持する人が、指導者として厳格な人を支持していると考えられる。

表-7 外的基準と指導方法関連係数のクロス集計結果及び相関

要因	説明変数	クロス集計		相関	
		χ^2 値	P	相関係数	P
指導方法	指示したりしてクラブをリードしてくれる人	15.291	***	.338	***
	クラブ員の求めに応じて指導してくれる人			.160	*
				*** < .001	* < .05

2 要因分析の結果

1) 厳格な指導者への支持度の規定要因

表-8はスポーツ・クラブ員による厳格な指導者への支持度を規定する要因の分析結果である。 η^2 値は0.554であった。レンジはレンジの範囲が大きい変数ほど、そのどのカテゴリーに反応するかで予測値が大きく変わりそれだけ外的基準に対する影響が大きいと考えられることから、各変数の外的基準に対する影響の大きさをあらかず目安として用いられるため⁽⁴⁾、レンジにより考察を行うことにするが、各要因の規定力を見ると、在籍年数、指導者の有無、運動経験、練習計画の立て方を指導してくれる人、知性的な人、クラブのメンバー数、クラブへの参加目的、カウンセリングを行ってくれる人、練習計画の決定方法、明朗な人、という順位になっている。

上位10アイテムの内訳は、個人及びクラブの属性に関するアイテム6、指導者の資質に関するアイテム2、クラブの運営指導に関するアイテム2、となっており、個人及びクラブの属性に関するアイテムが過半数を占めた。

表-8 要因分析の結果

アイテム	レンジ	順位	カテゴリー	カテゴリー・スコア	偏相関	順位
在籍年数	1.647	1	半年未満	-.528	.267	5
			半年以上1年未満	-1.119		
			1年以上3年未満	-.020		
			3年以上	.119		
指導者の有無	1.422	2	いる(クラブ・メンバー)	.209	.303	2
			いる(クラブ・メンバー以外)	1.086		
			いない	-.336		
学生時代の運動経験	.951	3	同種目のクラブで運動	-.013		
			異種目のクラブで運動	-.796		
			授業で教わった	-.339		
			放課後など個人的に運動	-.018		
			行ったことがなかった	.155		
練習計画の立て方を指導してくれる人	.914	4	思う	.359	.263	4
			わからない・思わない	-.555		
知性的な人	.785	5	思う	.291	.312	1
			わからない・思わない	-.494		
メンバー数	.718	6	10人未満	.600	.196	8
			10人以上20人未満	-.118		
			20人以上30人未満	-.094		
			30人以上	-.094		
クラブへの参加目的	.712	7	技術の向上	.457		
			スポーツを楽しむ	.004		
			仲間と楽しく運動	-.255		
			健康づくり・その他	-.080		
カウンセリングを行ってくれる人	.694	8	思う	.411	.272	3
			わからない・思わない	-.283		
練習計画の決定方法	.597	9	指導者が決定	-.356		
			リーダー・世話人が決定	.178		
			指導者とリーダー・世話人が相談して決定	.241		
			クラブ員全員で決定	-.188		
			その他	.114		
明朗な人	.568	10	思う	.122	.176	10
			わからない・思わない	-.446		
クラブの構成メンバーである人			思う		.211	6
			わからない・思わない			
クラブ員の求めに応じて指導してくれる人			思う		.204	7
			わからない・思わない			
ユーモアのある人			思う		.191	9
			わからない・思わない			

(注) 順位はすべての要因 (42アイテム) 中の順位であるが、11位以下は省略した。(η²=0.554)

2) カテゴリー・スコアと寄与の方向

カテゴリー・スコアは各カテゴリーが、厳格な指導者への支持度のどの方向にどれだけの強さで影響を与えているかを見ることを可能にするものであり、本研究では、カテゴリー・スコアが正の符号の場合、厳格な人を指導者として支持する、という方向に寄与し、負の符号の場合、厳格な人を指導者として支持しない、という方向に寄与することになるが、カテゴリー及びカテゴリー・スコアは表-8の通りである。

10アイテムのうち、個人及びクラブの属性に関するアイテムが6アイテム見られるが、在籍年数、指導者の有無、学生時代の運動経験の3アイテムが上位3位までを占めている。在籍年数では期間の程度によりカテゴリー・スコアの符号が異なっており、在籍期間3年を分岐点に厳格な人にたいする支持の変化がみられる。また、指導者の有無では所属するクラブに指導者がいるかないかにより、学生時代の運動経験では、クラブのスポーツ種目を学生時代に行ったことがあったかどうか、厳格な指導者に対する支持の分岐点になっている。クラブへの参加目的では、技術の向上、スポーツを楽しむを参加目的にしている、いわばスポーツ自体に目的を置く人では厳格な指導者が支持されていると考えられるが、仲間と楽しく運動することや健康づくりに目的を置くスポーツを手段的に捉えている人では、不支持の傾向が表れている。クラブの属性では、メンバー数10人を分岐点として支持に差異がみられる。また、練習計画をどのような方法で決定するかにより、厳格な指導者に対する支持に差異がみられる。

資質に関しては、スポーツ・クラブの指導者として知性的な人、明朗な人がふさわしいと考えている人では、指導者として厳格な人を支持している。

運営に関しては、練習計画の立て方を指導してくれる人、及びカウンセリングを行ってくれる人が指導者として適当であると考えている人では、厳格な人への支持が高い。

要 約

本研究は地域社会のスポーツ・クラブにおいてスポーツ・クラブ員による厳格な指導者への支持度を規定する要因を探ることを目的とするものであったが、結果を要約すると以下ようになる。

1. スポーツ・クラブ員による厳格な指導者への期待度と説明変数との関係を探るため、 χ^2 値及び相関係数を求めたが、23の変数で χ^2 値あるいは相関係数の片方または両方に有意差が認められた。

内訳は、個人及びクラブの属性に関連して2変数に、資質に関連して4変数に、親和に関連して3変数に有意差が認められた。また、技術・知識の指導に関連して6変数に、運営の指導に関連して6変数に有意差が認められた。指導方法に関連しては指示型と助言型という2つの

指導方法に有意差が認められたが、両者の χ^2 値及び相関係数の比較により、指示型の指導方法を希望する人に厳格な指導者を支持する人が多い、と判断した。

2. 林の数量化Ⅱ類によりクラブ員の厳格な指導者への支持度の規定要因を探ろうとして、カテゴリー数量のレンジによる考察を行ったが、上位10アイテムの内訳は、個人及びクラブの属性に関して6アイテム、指導者の資質に関して2アイテム、クラブの運営指導に関して2アイテム、となっており、個人及びクラブの属性に関するアイテムが過半数を占めた。

カテゴリー・スコアの寄与の方向では、個人及びクラブの属性関連のアイテムである在籍年数、指導者の有無、学生時代の運動経験の3アイテムが上位3位までを占め、厳格な指導者に対する支持・不支持について明確な傾向を示した。クラブへの参加目的では、スポーツ自体に目的を置く人に厳格な指導者の支持者が多い、と考えられる。

本研究は、回答数が極めて少ないカテゴリーはパラメータが不安定になりやすい、という問題を回避するために、質問紙中の5段階評定を2段階評定に統合し直した後分析したため、設問に対して「わからない」とする回答者を「思わない」とする回答者のグループに加えて分析を行った。したがって、厳格な指導者の支持群とそれ以外の群との判別を課題として扱っているが、「わからない」とする回答者を除いた支持群、不支持群の判別を今後の課題としたい。

引用・参考文献

- (1) 福元和行：「地域スポーツ指導者に関する研究 ―スポーツ・クラブ指導者に求められる条件について―」, 鳥取大学教養部紀要, 第26巻, 1992, P. 389
- (2) 芝 祐順：因子分析法, 東大出版会, 1983, PP. 226~227
- (3) 山田文康：「試験問題の難易度を予測する」, 渡部洋編著『心理・教育のための多変量解析法入門 ―事例編―』, 福村出版, 1991, P. 122
- (4) 山田文康：「数量化Ⅰ・Ⅱ類」, 渡部洋編著『心理・教育のための多変量解析法入門 ―基礎編―』, 福村出版, P. 140
- (5) 金崎良三：「スポーツ行動の予測因に関する研究(1)」, 健康科学, 第3巻, 1981
- (6) 多々納秀雄：「スポーツ参加の多変量解析(1)」, 健康科学, 第2巻, 1980
- (7) 宇土正彦他編著：『体育経営管理学講義』, 大修館書店, 1989
- (8) 宇土正彦：『体育管理学』, 大修館書店, 1983
- (9) 糸野豊他編著：『現代スポーツ指導者論 ―その社会的見方・考え方―』, ぎょうせい, 1988
- (10) 社会体育研究会：『スポーツクラブ』, 新宿書房, 1979
- (11) 前川峯雄他編：『指導者のためのスポーツ・クラブ』, プレス ギムナスチカ, 1979

